

第4節 硬式野球班

スポーツが身心の健康増進に貢献していることは極めて明白であり、中でも野球はわが国に伝来してから既に百数年の歴史をもち、職業野球や社会人野球がこれほど盛んになった今日でも、スポーツとしての野球はやはり学生野球をその根底においている。学生野球はあくまで人間形成の一環として学校が認めた野球のことであって、学生仲間の単なる娯楽としてのものではない。それ故、学生野球は野球という団体スポーツを通じて、きびしい練習と試合により、身心の鍛練をはかるとともに、協調精神や団体の中における自己の責任の重大さの認識、機敏さや沈着な動作など技術者としてまた一社会人としての生活に最も大切な種々のことがらを実践をもって教えこむことを主眼としている。ここにグラウンドは教室であり、教室はグラウンドであるという野球班顧問、監督の指導理念の意味がある。

昭和41年6月18日、武生工業高校グラウンドに於て、武工ナイン相手の24-0大敗の試合を高専野球班誕生の産声として数多くの先輩班員の歩いた道が今日につながり、たえず後輩班員への無言の励しとなって10年に及んでいる。

野球を通じ班員各自が、何を感じ、何を体得したか日記に残された彼等の語録の中から拾ってみる。

『ノックを受け、バットを振り、無心に追う白球、血と汗と土の匂に青春の美を知った』(石野学)

『欣喜衰楽すべて1個の白球の中、これが野球道』(林 忍)

『野球は和の美』(鶴野和美)

『見えるものを大切に、見えないものを大切に』(岸下幸治)

『勝ったよろこびと負けた苦しみ。練習の痛みとその後の満足感。色々皆と共に味わった』(内田隆陽)

『球友に恵まれて僕はしあわせ者だ』
(武内三郎)

『接戦の末、石川高専を破った高専大会、グラウンドで聞いたわが高専校歌、胸にこみあげ瞳にあふれる涙に友とよべる同窓生のあることを知った』(稗田一彦)

『病気など空白があったが、野球に助けられた』(板垣和夫)

『先輩、同輩、後輩、監督、部長、人の和の中で大好きな野球が出来て幸せだ』
(坂川広行)

『苦しい練習をのりこえて、ここまで来たのだから、ちょっとやそっとのことには負けない自信がある』(田中雅利)

『消極的な己の性格を、先輩の励しと忠告を支えに矯正し堂々とした野球班員になりたい』(西野茂生)

『苦しい時、先輩、同輩、後輩の心の底からの励しの声、それによって出来た結びつきがうれしい』(迎野雅行)

『社会に出て、つらい時まず君らの顔が浮ぶ、それで乗り越えて来た』(河合一男)

『がんばれば出来る! グラウンドから根性を掴みとれ、9人で取った市長杯』(青山清)

『顔で笑って、心で泣いて、僕らには明るい未来が信じられる』(宇野孝一)

38勝55敗5分の○×△、その中のいくつかは彼等それぞれ青春の思い出が残され、これからの人生での強い心の支えとなるだろう。彼等にとって○×△は単なる記号ではない。それは彼等の守護符だ。

(津郷 勇)

年 月 日	相手チーム	得 点	勝 負	年 月 日	相手チーム	得 点	勝 負
41. 6. 18	武 工	0-24	×	47. 4. 29	勝山精華	9-0	○
7. 25	富山大学	5-12	×	4. 30	敦 高	2-1	○
42. 5	富山高専	9-10X	×	5. 3	美 方 高	2-5	×
6	鯖 高	7-5	○	5. 7	武 工	1-9	×
6	舞鶴高専	5-14	×	"	"	5-2	○
7	鯖 高	5-3	○	5. 28	武 商	11-0	○
7	富山高専	8X-6	○	"	勝 山 高	3-3	△
7	岐阜高専	0-5	×	6. 24	敦 高	1-0	○
9	鯖 高	0-7	×	6. 25	岐阜高専	1-6	×
9	武 商	2-19	×	"	"	4-5	×
43. 5	武 商	3-5X	×	7. 1	鯖 高	0-2	×
5. 25	鯖 高	16-2	○	高専大会			
6. 2	舞鶴高専	3-6	×	7. 8	石川高専	2-1	○
7. 14	石川高専	9-1	○	優 勝			
7. 14	富山高専	8-0	○	7. 9	金沢高専	9-1	○
11. 10	石川高専	7-12	×	7. 16	鯖 高	1-1	△
44. 4. 9	鯖江クラブ	4-5X	×	7. 21	福井農林	0-2	×
4. 17	武 高	0-12X	×	武生市長杯			
4. 20	武 工	7-15	×	48. 4. 18	鯖 高	5-4	○
5. 25	福井大学	18-14	○	優 勝			
6. 22	舞鶴高専	3-8	×	4. 21	武 商	3-2	○
6. 28	羽 水 高	0-13	×	4. 29	武 高	2-0	○
7. 13	富山高専	4-3	○	4. 30	敦 高	0-6	×
7. 13	石川高専	1-1	△	5. 27	武 商	4-3	○
(北陸地区高専大会3連勝)				5. 27	北 陸 高	1-5	×
45. 4. 25	鯖 高	0-2	×	5. 27	武 高	0-4	×
		1-17	×	6. 2	福 井 商	2-3	×
5. 2	敦 高	5回コールド	×	6. 23	丹 生 高	4-0	○
5. 30	鯖 高	9-2	○	6. 24	舞鶴高専	3-2	○
5. 31	富山高専	0-2	×	6. 30	武 工	2-7	×
6. 27	丹 生 高	3-7	×	7. 1	福 井 工	8-2	○
7. 21	勝山精華	1-5	×	" 7	福井大学	5-13	×
46. 4. 10	丹 生 高	11-5	○	7. 7	北 陸 高	1-4	×
4. 11	鯖 高	11-4	○	高専大会			
4. 18	武 商	5-2	○	7. 7	石川高専	10-2	○
武生市長杯(次勝)				7. 8	福 井 高	2-10	×
4. 18	武 高	3-6	×	高専大会(次勝)			
5. 1	丹 生 高	11-0	○	7. 8	富山商船	5-13	×
5. 2	大 野 高	10-3	○	7. 15	勝 高	2-1	○
5. 3	美 方 高	0-7	×	"	福井農林	9-0	○
5. 29	武 工	3-4	×	7. 16	鯖 高	6-2	○
6. 26	鯖 高	12-2	○	7. 21	武 工	2-4	×
6. 27	勝 山 高	4-4	△	7. 25	丹 生 高	1-3	×
6. 27	福井農林	2-3	×	9. 9	武 高	0-10	×
7. 17	石川高専	2-7	×	49. 3. 30	武 商	1-2	×
7. 18	富山高専	5-4	○	3. 31	武 高	2-12	×
7. 23	若 狭 高	1-3	×	4. 7	鯖 高	9-2	○

年 月 日	相手チーム	得 点	勝 負	年 月 日	相手チーム	得 点	勝 負
49. 4. 18	武 工	2－13	×	49. 7. 17 7. 22 8. 31 9. 7 9. 8 9. 10	石川高専 勝山精華 鯖 高 丹 生 高 武 商 "	優勝戦	
4. 20	丹 生 高	1－9	×			3－4	×
4. 28	春 江 工	0－8	×			8－11	×
6. 22	武 高	1－17	×			3－7	×
6. 23	舞鶴高専	13－2	○			鯖江市長杯	
6. 29	鯖 高	9－20	×			3－2	○
7. 13	金沢高専	14－1	○			"	"
						0－0	△
				"	"		
				0－7	×		

野球部選手名表(甲子園大会予選時のメンバー) ○印主将

年度 位置	45	46	47	48	49
顧問	松 田 政 信	田 中 貞 行	津 郷 勇	"	"
監督	増田 太左衛門	"	"	"	河 合 一 男
マネ			佐 藤 洋 士	"	北 嶋 敏 明
投	○沢 田 国 夫	○佐 藤 洋 士	河 合 一 男	林 忍	稗 田 一 彦
捕	佐 藤 洋 士	竹 内 修 治	竹 内 修 治	田 中 雅 則	田 中 雅 則
一	伊 東 岩 男	山 本 敬 三	山 本 敬 三	武 内 三 郎	武 内 三 郎
二	竹 川 裕 治	免 博 彦	岩 下 幸 治	○岸 下 幸 治	荒 木 敏 一
三	中 山 博 之	中 山 博 之	石 野 学	宇 野 孝 一	内 田 隆 陽
遊	安 井 忠	安 井 忠	○中 山 博 之	青 山 清	○青 山 清
左	永 田 正 三	伊 東 岩 男	鶴 野 和 美	稗 田 一 彦	迎 野 雅 行
中	伊 部 宏 幸	竹 田 照 美	北 嶋 敏 明	坂 川 広 行	山 本 健 二
右	免 博 彦	鶴 野 和 美	竹 田 照 美	平 野 俊 男	北 嶋 弘 明
補	河 合 一 男 竹 内 修 治 竹 田 照 美 北 嶋 敏 明 この年高野連へ 入る	林 下 幸 忍 岸 野 学 治 石 野 永 寿 富 永 昭 白 屋 祐 樹 夫	林 富 永 寿 稗 田 垣 和 板 武 内 三 田 中 雅 則	迎 野 雅 行 長谷川 秀 次 八本木 幸 雄	板 垣 和 夫 西 野 茂 生 荒 木 敏 生 広 沢 巧 支 白 井 元 一 藤 井 恵 一

年度 順位 位置	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	2位	優勝	優勝	優勝	3位	3位	優勝	2位	2位
投	高須 秀雄	高須 秀雄	原田 範章	原田 範章	原田 範章	○原田範章	佐藤 洋士	○佐藤洋士	林 忍
捕	川端 章一	川端 章一	前田 良二	○前田良二	前田 良二	竹川 裕治	竹川 裕治	竹内 修治	河合 一男
一	寺前 一成	川田 輝仁	川田 輝仁	沢田 国夫	峯田 明慶	沢田 国夫	北 晴之	山本 敬三	山本 敬三
二	○斉藤 修	○斉藤 修	○斉藤 修	斉藤 修	原田 繁樹	山田 朝弘	坂川 広行	河合 一男	岸下 幸治
三	高橋 修	藤丸 幸裕	向瀬 光雄	向瀬 光雄	○向瀬光雄	藤丸 幸裕	○沢田国夫	中山 博之	石野 学
遊	長谷川正博	長谷川正博	長谷川正博	長谷川正博	長谷川正博	長谷川正博	安井 忠	安井 忠	○中山博之
左	前田 良一	前田 良二	大久保 茂	大久保 茂	斉川 幸雄	斉川 幸雄	伊東 岩男	伊東 岩男	鶴野 和美
中	東 豊	東 豊	東 豊	東 豊	大久保 茂	伊部 宏幸	伊部 宏幸	北嶋 敏明	北嶋 敏明
右	川田 輝仁	山岸 吉則	山岸 吉則	山岸 吉則	浅井 義一	松村 純夫	鹿島 行彦	竹田 照美	竹田 照美
補	松下 彰男	原田 範章	水上 正之	竹川 裕治	松北 邦男	石野 学		鹿島 行彦	竹内 修治
	南 則夫	登美 晶	斉川 幸雄	原田 繁樹	坂下 幸和	臼屋裕樹夫			荒木 裕三
	宮本 輝幸	峰田 明慶	竹田 裕治	伊部 宏幸					免 博彦
		水上 正之	沢田 国夫	佐藤 洋士					左近 重信
		杉田 伸夫	藤丸 幸裕	坂本 和保					